

# 明治大学 2019 年度【春期】 国際化サポート海外留学奨励金 留学報告書

<b>研修先名</b>	カリフォルニア大学デービス校
<b>所 属</b>	国際日本学部 国際日本学科 2年

**留学先での学習(実習)内容およびご自身の学習成果について記載してください。(250～300 字程度)**

授業は、一コマ 50 分授業で、集中を切らすことなく臨める時間配分だった。また、授業中は常に先生が生徒が話していることがほとんどで、生徒の発言が少ないと先生はどうしたのかと心配する程だった。授業内容が異なるという要因もあるかもしれないが、ずっと話を聞く日本風の講義と比べて、話続けるこのスタイルのほうが自宅での勉強時間が少なくてもその授業時間のうちに大部分の知識が身につけていることが多かった。内容も、生徒によるプレゼンテーションなど、アクティブな内容が多く、参加しやすいものであった。また、課題は半分以上がプレゼンテーション等の下準備で、さらに休日にはあまり課題を課されなかった。

**課外活動等、授業以外の時間にどのような経験を得ることができたか記載してください。(250～300 字程度)**

放課後の時間を多く持つことができるスケジュールであったので、その時間には、クラスの友人と課題をしたり、ダウンタウンに出かけたりした。ダウンタウンに出かけた際に気が付いたことは、すべての店が、プラスチックバッグ、レジ袋が有料であるということだ。これを受けて、多くの買い物客がマイバッグをもって買い物に来ていた。この様子を見て、住民一人ひとりの環境に対する意識の差が日本に住む我々との間にあることを感じた。また、学生やそのほかの人々にインタビューした際には、私たちと年代別の学生が難しい社会問題に対してしっかりと意見をもち、ためらいなくその考えを話しており、それも日本とは反対だと思った。

**滞在先・現地での生活に関する経験・感想について記載してください。(250～300 字程度)**

日常生活では、日本との大きささまざまな違いが多かった。一番初めに気付かされたのはトイレである。日本の女子トイレは個室の壁や扉が床から天井までであることがほとんどだが、アメリカの場合は、上下が開いており、日本人からするとスカスカな感覚であった。一方、道路には、時たま一段高くなっている部分が見られ、そこでは車は速度を落として通過することが求められており、スピードの出しすぎを防いでいた。速度に関するものは他にもあり、定められた速度を超えて通過するとその速度が表示され、ドライバーに注意喚起をする装置もあった。さらに、道路上に電柱がなく、あるのは標識や街灯のみであった。そして、デービスは環境に対する意識が高く、分別を促すごみ箱が町中に設置され、大学内にも同じものがあつた。家庭にもよるだろうが、洗濯にも気を使っており、大体の洗濯回数は一週間に一度だった。

**今後の展望・目標について、留学前と後での変化も含め記載してください。(250～300 字程度)**

アメリカでの生活を約一か月続けて感じたのは、人目を気にしなくてもよい生きやすさだった。デービスは、空気がきれいなため毎日きれいな空を芝生に転がって見上げられ、歌いながら自転車をこぐ、という東京では少し人目を気にしてためらってしまうけれどとても開放感のあることをできるため、非常に生きやすかった。人目を気にせず自分のしたいことをしよう、そういった空気が非常に心地よく感じられた一か月だった。留学に行く前は、友人や周りの人にどう思われるかを心の奥で気にしてしまっている自分がいたが、この経験を得て、自分の思うように選択することの快適さを知り、自分の意思を強く持てるようになったように感じる。

## 写真貼付 (1 枚)

※研修先で撮影した写真を 1 枚 (1MB 以内) ご提供ください。撮影場所・写真の説明も記載してください。

休日に友人と出かけたサクラメントで撮った  
タワーブリッジ



【注意事項】提出された留学報告書は、次年度以降の短期海外研修の募集および未来サポーター募金事業の広報を目的に、原則として当原稿をそのまま外部に公開いたします (学生番号、性別、生年月日、連絡先は公開しません)。

【写真提供の注意事項】※ご提供いただいた写真は、大学の広報誌やウェブサイト、募集説明会の際利用するパワーポイント等、様々な媒体で広く広報に活用させていただく可能性があります。複数の方が写っている写真をご提供いただく場合には、写真撮影の際にその写真に写る方に本学への写真提供について許可を得ていただいたものをご提供ください。